発行:2023年3月

大阪市男女いきいき財団 ニュース NEWS

vol.46
2023.3

シスターフッドで行こう！

JWLI Bootcamp2022 Osaka

財団が1年間に取り組んだ
事業をピックアップ

ハイライト2022

- JWLI Bootcamp開催Report
- 若年女性の就労や自立を支援
- 地域防災にジェンダー平等の視点を
- 財団設立30周年記念事業

What's 大阪市男女いきいき財団？

ダイバーシティ（多様性）の時代。私たちがめざすのは、地域の皆さん、企業、学校、行政機関などと連携し、誰もがイキイキ暮らせる社会を創ることです。大阪市立男女共同参画センター（クレオ大阪）5館をはじめとする公共施設の管理・運営や、悩み相談、研修・啓発事業などを通じて、すてきな未来づくりのお手伝いをしています。

開催Report

JWLI Bootcamp × 大阪市男女いきいき財団

米国・ボストンを拠点に、女性や若者を支援するフィッシュファミリー財団のプログラム「JWLI Bootcamp」が2022年、日本の徳島と大阪に上陸！ ボストンの4週間の女性リーダー研修のエッセンスを3日間に凝縮したプログラムが、大阪では、8月5日〜7日の3日間、クレオ大阪中央で開催され、大阪市男女いきいき財団は共催団体として協力しました。大阪会場には、関西を中心に全国から12人が参加。社会福祉、防災、教育支援など、多彩な分野で道を切り開く女性たちが一同に会し、講師陣とのインタラクティブなワークショップを体験しました。

悩みを抱えるリーダーたち

多彩に活躍する彼女たちですが、実はそれぞれ悩みや葛藤を抱えています。社会におけるジェンダー格差に苦しんだり、活動資金や仲間集めという障壁にぶつかったり…。リーダーだからなかなか弱音を吐けない。自分と同じような立場の人に普段出会えない。そんな女性たちが本音で語り合い、互いに励まし合える場がJWLI Bootcampです。

OPEN,POSITIVE,INCLUSIVE

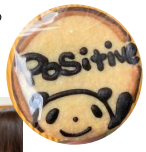
「ここは大阪ですが…この3日間はアメリカだと思って！」スタッフのそんな呼びかけに、はじめは戸惑い気味だった参加者も、次第に遠慮せず、積極的に発言していくアメリカンスタイルに。この3日間は、JWLIの3つの学びのモットーがルールです。

OPEN（自分らしく。互いに興味を持ち、耳を傾ける）
POSITIVE（笑顔で。失敗を恐れずトライ）
INCLUSIVE（互いを尊重＆尊敬する）

コミュニケーションスタイルも、もちろんアメリカ式。講師も参加者もファーストネームで呼び合い、フラットな関係を築きながら、よりよい未来に向けてアイデアを交わしました。

「活動をどのように社会に広げていくか」「自分のビジョンを実現するには何が必要か」。とことん考え、言葉にして意見交換。フィードバックを元にさらにブラッシュアップする…。参加者は、その繰り返しの中で、内に秘めた情熱の表現方法や、説得力のあるデータの見せ方を学び、失敗を恐れず挑戦するマインドを育みました。

女性たちを支えたのは講師やスタッフだけではありません。クレオ大阪中央のカフェ開業チャレンジ講座修了生の女性たちも、食を通じて応援。3日間教室やホテルで過ごす参加者を気遣い、野菜たっぷりの健康的なランチや可愛いスイーツを提供してくれました。参加者たちは同じ食卓を囲み、ほっと安らぐひとときを過ごしました。



3日間での成長を「ピッチ」で披露

最終日。それぞれの活動の課題、そして、それを解決するために何が必要か、どんなサポートを必要としているかを発表しました。プレゼンの手法は、シリコンバレー発祥の「ピッチ」です。優秀な発表者に選ばれると、世界的なイノベーターのコミュニティ「ベンチャーカフェ東京」でのイベントに登壇することができます。

夜遅くまでパソコンに向き合い、参加者同士で練習するなど、今できる精一杯の力を出し切って準備した参加者たち。4分という限られた時間の中での発表ということもあり、緊張した面持ちで臨みました。

“応援”で育まれる自信と自己肯定感

しかし、ピッチがはじまると、どの参加者たちも堂々としたスピーチを披露し、審査員を驚かせました。

ただ活動への思いを語るのではなく、今の活動に足りないものや、そのためにどれだけの資金が必要で、どんな人脈を求めているのか。「私は〜がほしい！」。臆さずに訴えかける言葉には、リーダーや起業家としての野心やチャレンジ精神が宿っていました。目を輝かせながら会場に語り掛ける姿は、2日前とは別人のよう。たくさんの応援で自己肯定感を育み、自分の道を貫く自信を身に付けたことが実感できる―。そんな嬉しさと驚きがあふれる時間になりました。

we can make a difference!

12月、ベンチャーカフェ東京で聴衆を前に堂々とスピーチをする3人

ベンチャーカフェ東京での登壇権を得たのは3人。地域防災のジェンダー平等に励む裕子さん、ブラジル人学校を運営し多文化共生に取り組むヤスエさん、そして、フードバンクでひとり親の子どもたちの未来づくりを支援する由紀さん。3人だけでなく、全員のスピーチのどれもが、社会を変えるリーダーとしての覚悟を感じさせるものでした。

「ここに来て変わることができた」「人に頼ることは恥ずかしいことじゃないと気付いた」。涙と笑みをたたえながら、明日への原動力を手にした参加者たち。

「自信をもっていきましょう。これからも応援しているから」。主催団体であるフィッシュファミリー財団共同創設者、厚子・東光・フィッシュさんは、参加者一人ひとりとハグを交わし、エールを送りました。

12人の女性たちには、ここに集ったメンバーだけでなく、140人を超えるJWLIエコシステム（プログラム卒業生のためのコミュニティ）の心強い仲間もいます。JWLIのスピリットを体感した彼女たちは、きっとこれからの関西、そして日本、世界を明るく照らしてくれるでしょう。

シスターフッドで行こう！ JWLI Bootcamp2022 Osaka

豪華講師陣！

柴沼 俊一さん
JWLI
エグゼクティブメンター

山川 恭弘さん
バブソン大学
アントレプレナーシップ准教授

大嶋 栄子さん
NPO法人
リカバリー代表

厚子・東光・フィッシュさん
フィッシュファミリー財団共同創設者

ためらわず、前へ！

参加者の変化

参加者に対し、JWLI Bootcampの前後でリーダーの資質に関するアンケートを実施しました。
特に大きな変化があったのは以下の3項目。
これからもJWLIと大阪市男女いきいき財団は、卒業生の皆さんを応援し続けます！

- リスクテイク → リスクを引き受ける
- 自信 → リーダーとして自信を持つ
- ポジティブ → 失敗を恐れず挑戦する

JWLI Bootcamp卒業生のLife&Career Story

公認会計士業界で
女性活躍推進活動に取り組む

原 繭子さん

日本公認会計士協会近畿会幹事
SDGs・ESG専門委員会長

自分に嘘はつけない　常に挑戦する

30代前半の全ての時間を費やして挑んだ公認会計士の試験は、5年経っても手ごたえはなし。仕事を辞めて、実家で親の世話になりながら受験勉強する自分と、キャリアを積んで成長する同世代を比べ、落ち込む日々でした。このまま続けてよいのか迷いが生まれ、「ここで挑戦を辞めたら、残りの人生本当に後悔しない？」と自分の心に問いかけました。はっきりと聞こえたのは「あかん！自分に嘘はつけない！」という声。覚悟を決めて勉強に打ち込み、7度目の受験でようやく会計士としてスタート地点に立つことができました。合格発表の日は、うれしさよりも「もう受験しなくていいんだ」と放心状態だったのを覚えています。

大手監査法人に就職したものの「女性」であり「37歳の新人」という立場は、当時は今以上にマイノリティ。早く一人前だと認めてもらえるよう仕事に打ち込みましたが、組織の解散や転籍など試練の連続でした。その後は自治体の監査委員事務局に入職。生活に困窮する市民の支援など、単純な損得では測れない公益について考える機会となり、社会を見る視野が広がりました。その頃から、日本公認会計士協会近畿会の女性会計士委員会で研修や企画を担当。2016年度からは委員長として、女性の会計士の働きやすさや活躍機会の創出に力を注ぎました。

尊敬できる仲間との出会い 話すことでほぐれる気持ち

大学での建築専攻、飲食や店舗開発の仕事、7年間の受験生活…。さまざまな経験があるから今の私がいます。ただ、当時の会計士業界では、それがプラスに評価される場面はあまりありませんでした。だからいつも「自分のキャリアについて、どう思われるのだろう」と慎重になってしまうのですが、JWLI Bootcampでは、話すことで互いに気持ちをほぐすことができて、私の話に勇気づけられたという人もいて、安心感がありました。

特に印象に残ったのは講師の栄子さんのお話。依存症に苦しむ女性の回復プログラムを運営するには、支援する側のメンタルケアも必要です。きっと想像以上に大変な取り組みで、多くの人は思いがあっても行動に移せないでしょう。まさに社会を変える人。衝撃を受けました。

非営利団体や支援団体のトップの方が多く、最初は場違いではないかと参加を迷いましたが、私の立場からできることがあるとJWLIに認めてもらえたんだと思います。心から尊敬し、互いを応援できる仲間との出会いは宝物です。

多様な人が働ける社会づくりは 母への恩返し

立命館大学大阪いばらきキャンパス地域イノベーションプログラム OIC CONNECTに卒業生として登壇！

そもそも、私のジェンダー平等への問題意識は母の実体験から培われました。祭りの神輿に乗ることができなかったり、成績が優秀でも男性より評価が低かったり。こうした悔しい思いを娘が味わうことがないように「女性も手に職をつけなさい」と育ててくれました。このことが、私の進路選択や公認会計士の資格取得にもつながりました。受験中、私の心をずっと支えてくれたのも母でした。

ただ、これまでの経験から、ジェンダー平等は個人の努力だけでなく国や企業も積極的に取り組まなければ難しいと感じます。JWLI Bootcampのピッチでも発表しましたが、企業の女性管理職の割合を男性と同等まで増やすのが私の目標。今年度から企業2社の社外取締役や監査役に就き、多様な社員が働きやすい職場づくりを実践するという新たな挑戦を始めました。私は転職で環境を変えましたが、同じ組織にいても生き方や価値観は変えられます。若い人が「働くって楽しい」と感じられるよう社員の方と一緒に取り組みたいです。

私の活動で少しでも社会を変えることができたら、他の人々のためだけでなく、母の経験が無駄にならないことになる。そう信じています。

ひとり親家庭の親子の
家事支援や居場所づくりに取り組む

大和 陽子さん

NPO法人こどもサポートステーション
たねとしずく　代表理事

私たち女性が辞めさせられない 職場をつくろう！

女性だからとチームに入れてもらえなかったり、妊娠を機に辞めさせられそうになったり。広告代理店や園芸店の仕事では、男性社会で働く苦しさを味わいました。さらに、東日本大震災を機に関東から兵庫県西宮市に拠点を移すと、これまでのキャリアが断たれて、うつ状態に。経済的に自立できず、自尊感情も低くなり思い悩む中、周りの女性たちも同様に、女性ならではの生きづらさ、働きづらさを感じていることがわかりました。

「私たちが辞めさせられない職場をつくろう！」と、立ち上げたのが、産前・産後の家事をサポートする団体「a little」です。家事や育児に追われる母親が自分の時間を取り戻すこともできるし、メンバー自身も家事の経験をキャリアに変えてエンパワーメントされます。さまざまな家庭と関わる中、気づいたのは、ひとり親家庭が置かれる状況の過酷さです。離婚に至るまでの傷が癒えないまま子育てをしたり、傷つけられすぎて誰のことも信用できなかったり。日本の社会保障や制度は素晴らしいと思っていたけれど、親ひとりに抱え込ませるっておかしいんじゃないか。そんな思いから「a little」を創設メンバーに委ね、ひとり親家庭支援に特化した新団体「たねとしずく」を立ち上げました。

新団体「たねとしずく」の設立総会

励ましの力で満ちたリーダーとしての自信

前の団体で思い描いていたことができなかった後悔や、自分のリーダーシップ性に対する自信のなさを、少しでも変えたいという思いから参加したJWLI Bootcamp。私以外の参加者も、自信満々…というわけではなく、今まさにこれから頑張ろうとする人たち。リーダーとして自分の団体をしっかり率いるものの、周りに弱音を吐けず不安も抱えている。そんな等身大の姿に共感し、不思議と連帯感が生まれたような気がします。

最終日のピッチの準備中、同じくひとり親支援事業を行う「シングルペアレント101」代表の田中志保さんに「どうして当事者ではないのに活動に取り組むの？」と聞かれました。思い出したのは、幼い頃にひとりぼっちで公園に佇んだ記憶でした。親の離婚で地元を出て、二度と会えなくなってしまった友だち。環境が変わり、周囲との関係が途絶えてしまうことのつらさを、子どもながらに感じた初めての出来事でした。「陽子さんが関わる意味はそこにあったんだ！」と志保さんが納得してくれて、自分の原点を振り返るきっかけにもなりました。

講師も参加者も互いを称え合い、「シスターフッド」と「励まし」の力を実感する3日間。「あなたは新しい団体をつくる力があり、それを次の人に渡せるだけの力を持っている」。厚子さんの言葉で、「またイチから始めたらいいんだ」と自信を持って前を向くことができました。もう、自信過剰になってしまうほど（笑）私は私のまま、団体の仲間たちと協力して活動していこう。そう思いを新たにすることができました。

助け合いの循環をつくり 次の誰かを応援できるように

活動を通じて、落ち込んでいた人が元気な笑顔を見せてくれた時、これからも続けていかないと、と気が引き締まります。ひとり親の支援は「専門家でないと関われない」「接するのが難しい」と思われがちです。でも、専門家しか携われなかったら、しんどい思いを抱える人は誰にも「助けて」と言えません。隣の誰かに「大丈夫？」と言ってあげられるような、助け合いの関係を市民同士で広げていければ、遠慮せずSOSを出せる人が増えるのではないかと思います。

今は、ひとり親家庭の子どもたちが読書を楽しみ、多様な視点を持つ大人や同世代の仲間と出会える居場所をつくろうと、準備を進めています。

つらい時を乗り越えた人が、次は誰かを応援してくれる。そんな循環をつくっていきたいです。

いきいき財団Topics①

地域防災にジェンダー平等の視点を

舞い上がれ 社会を変える みんなの力
休眠預金を活用した事業です

いつ起きてもおかしくない災害 見落とされがちな課題とは

人口減少や単身世帯の増加により、地域の防災活動の担い手が減少しています。そんな中でも、南海トラフ巨大地震など私たちを襲う災害はいつ起こってもおかしくありません。

避難所運営や復興の過程で見落とされがちなのが、ジェンダー平等や多様性の視点です。阪神淡路大震災や東日本大震災では、性別による支援のニーズの違いや、女性の意見の届きにくさが課題として指摘されてきました。

大阪市の調査によると、大阪市防災会議の女性比率は25.5%（2021年度）、地域防災リーダーは19.3%（2022年度）と、ジェンダー平等や多様性の視点からは十分ではありません。

地域防災の女性比率（大阪市調べ）

	2016年度	2021年度	2022年度
大阪市防災会議	12.8%	25.5%	—
地域防災リーダー	16.5%	—	19.3%

◀好事例調査として、NPO法人にしよどがにこネット代表・福田留美さん（写真左）にヒアリングする様子。

多様な人がリーダーとして参画できる社会へ

こうした社会課題の解決に向けて、財団では休眠預金活用事業（※）として地域の防災力向上に向けた女性リーダー育成事業を始めました。長年培ってきた調査研究や研修の企画・運営等のノウハウを活かし、2022年度から3年間取り組みます。

現在、地域で防災活動を実践する女性や企業の調査を進めており、好事例をまとめた冊子を作成しています。来年度からは、人材養成プログラムと交流促進プラットフォームの運営にも着手。災害弱者を含めた地域でのつながりの強化や、女性や子育て世帯など、さまざまな立場の人が地域防災の場でリーダーとして参画できることが当たり前になる未来をめざします。

※休眠預金等活用法に基づき、10年間取引のない「休眠預金」を、民間公益活動に活用する事業。

人材養成プログラム（予定）
- ジェンダー平等の視点からの学び
- 避難所運営体験
- 地域のステークホルダーとの対話
- 東日本大震災の被災地視察
- アクションプランの作成　など

プラットフォーム
事業の趣旨に賛同する団体や個人が情報共有したり、交流できるホームページや交流会などを運営

好事例調査・啓発冊子

→ 地域のジェンダーに関する課題の改善
地域全体の防災力向上

いきいき財団Topics②

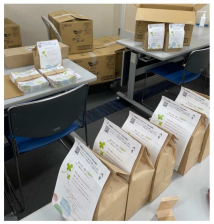
若年女性の就労や自立を支援

たんすいぽうの皆さん

大阪・関西のより良い未来をジェンダー視点から創る公益目的事業の一つとして、困難な状況にある人への支援事業に取り組みました。

学生による学生のための支援団体「たんすいぽう」との協働で、留学生を含む320人の女子学生へ生理用品を配付しました。コロナ禍で厳しい社会状況が続く中、切り詰めた生活を送っていた学生たち。「家計の負担が少しでも減らせる」と喜んでもらうことができました。LINE相談など相談窓口も案内し、困った時につながることができるツールがあると知ってもらうきっかけになりました。

NPO法人子どもセンターぬっくの支援を受ける若年女性の就労体験の場として、生理用品のパッキング作業も実施。女性たちの中には、心身の不調や不安定さからアルバイトが決まらなかったり、決まっても続かなかったりするケースも多いそうです。



女性たちがパッキングした生理用品

今回は、財団スタッフに見守られて安心できる環境の中で「私にもできた」という成功体験を少しづつ積み上げ、自己肯定感を育んでもらいました。

財団では、今後もさまざまな形で、困難な状況にある女性たちの就労や自立につなげるサポートに取り組んでいきます。

30th anniversary since1993

大阪市男女いきいき財団は設立30周年を迎えました！

一般財団法人
大阪市男女共同参画のまち創生協会
理事長　京極 務

大阪市男女いきいき財団は、男女共同参画やジェンダー平等、さらには男女にとどまらないダイバーシティ推進に挑戦し続け、2023年2月に設立30周年を迎えました。一人ひとりの市民、団体、企業、学校関係、大阪市をはじめとする関係行政機関等、多くの方々に支えられ、お力添えをいただいたおかげと深く感謝しております。

時代や社会は急速な変化を遂げています。ジェンダー平等、ダイバーシティの推進は一層強く求められていると言えるでしょう。皆さまと共に大阪・関西のサステナブルな未来を拓いてまいりたいと存じますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申しあげます。

～記念事業の予定～

1 記念式典
30年の感謝の思いを込めて、7月にクレオ大阪中央でトークセッションや音楽イベントを開催します。

2 記念誌
財団のこれまでの歴史と、これからの未来を考える記念誌を発行します。

3 女性のソーシャル人材育成
Bootcampでの経験を活かし、2023年度から財団では女性のリーダーシップ育成事業を展開します。企業や団体など、さまざまな立場で社会課題解決に取り組む女性をエンパワーメントします！

4 アーカイブ「OSAKAウーマン」

大阪市立婦人会館

弁護士 石田法子さん

ジャーナリスト 細見三英子さん　生活評論家 三輪昌子さん

大阪を拠点として、男女共同参画や女性の地位向上に貢献してきた女性たちを取材。動画と冊子にまとめ、その経験と歴史を次世代に繋ぎます。

5 SNSでのメッセージ募集
新たな市民参加型事業として、ジェンダー平等の考えを広めるためのメッセージをSNSを活用して募集します。

30周年記念事業の最新情報を随時発信中！

Work support PLUS（ワークサポートプラス）

SDGs・ダイバーシティ推進はお任せください！

性別を問わず、働きやすい職場づくりに向けて法人様のご要望に応じてサポートします！（一例）

- ☑ オーダーメイド研修　企画のご提案から講師手配、研修当日までトータルにコーディネイト！
- ☑ ライフサポート相談　職場や家庭でのお困りごとを、専門相談員が両面からサポート！
- ☑ ハラスメント社外相談窓口　様々なハラスメントに関する相談をお受けします

社内コミュニケーション研修を実施した企業の社員の皆さまのお声
- 自分は問題ないつもりでしたが、改めて自らの言動が本当にこれで良いのか、見直す機会になりました。
- 「心理的安全性」は気になっていたテーマで、身近な例に落とし込むことができ、勉強になりました。隣の人とワークするスタイルが良いと感じました！

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS　5 ジェンダー平等を実現しよう

大阪市男女いきいき財団NEWS
発行　大阪市男女いきいき財団　正式名称 一般財団法人大阪市男女共同参画のまち創生協会
〒543-0002　大阪市天王寺区上汐5-6-25 クレオ大阪中央内
TEL：06-7656-9040　FAX：06-7656-9045　https://www.danjo.osaka.jp/